

# 埼玉労山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次  
〒336-0011さいたま市浦和区高砂 4-1-5 ふじビル2階 編集:青木 正

第41回

# 定期総会開催

## 事故防止・安全登山の普及・遭対基金保険業法 適用除外運動・自然保護等の活発な活動により 埼玉県連の拡大を目指す!

三月三十日(日)第四十  
一回埼玉勤労者山岳連盟定  
期総会が埼玉市民会館うら  
わで午前十時より開催され  
ました。

遭難対策基金の動向が  
焦点となり県内各会の代議  
員も多数出席され活発な意  
見・質問が展開されました。

司会の徳重副理事長より  
「今年には四十周年記念行事  
などあり活発な活動がなさ  
れました。遭難防止安全教  
育委員会では安全登山のた  
めの研究をしてみました。  
今年にはヒヤリハットを迅速  
に集めいかに対応していく  
か研究していきたい。」の  
開会挨拶後、議長団、書記、  
総会運営委員選出を行い、  
西部ブロック 渡辺信一  
(新座) 南部ブロック 伊  
藤正勝(わらび) 両氏の議  
長就任、挨拶後、武笠理事  
長より、「好天のもと会議で  
すが、五十期に向けて今後  
とも盛り上げてほしい。遭  
対基金の動向が危ういが全  
国連盟では金融庁と精力的  
に交渉している。今日は活  
発的な意見を出してよりよ  
い埼玉労山にしていきたく  
い。」と挨拶がありました。  
続いて来賓として全国連盟  
副理事長 藤元律子氏より  
「東京の“わたすげ”とい  
うハイキングクラブにおり、  
埼玉の催しにしばしば参加

させてもらっています。埼  
玉の活動はわかりやすい。  
女性委員会も活発に活動し  
ている。これまでの執行部  
の努力のたまものです。全  
国連盟としては今後も遭対  
基金の適用除外を勝ち取る  
活動、遭難や事故をなくし  
ていく活動、登山技術の習  
得や登山計画・管理の徹底  
を推奨し楽しい登山活動を  
広めていきます。」のあい  
さつをいただきました。

総会成立確認  
総会運営委員【受付】から  
代議員定数五十四名、出席  
代議員数三十九名と委任状  
数八名(二十クラブ出席、  
四クラブの委任状を確認)  
過半数に達し、総会は成立。  
\*改正保険業法報告  
全国連盟：伊藤正勝氏より  
全国連総会で承認決定され  
た労山特別基金の説明が行  
われました。  
「四月一日をもって遭難対  
策基金から労山特別基金に  
変わります。四月一日以降  
に入会する人は口数だけ申

請して後払いということに  
なります。  
労山特別基金は保険料後払  
いという事で保険業法で  
いう保険ではなくなる。そ  
のことは金融庁でも了解し  
ている。寄付金を一年間会  
で保管することで大変にな  
るが協力を願いたい。掛け  
金が先か後かということ  
で中身は変わらないです。  
埼玉県連からは「秋あたり  
で最終判断するというのが、  
ギリギリの段階でだめだつ  
たということにならないよ  
うに早目早目に情報を伝え  
てほしい。」との要請がさ  
れました。

次に第四十期活動報告と第  
四十一期活動方針が武笠理  
事長より発表されました。  
報告では事故防止の取り組  
みの強化として県連遭難防  
止・安全教育担当者会議を  
組織的に確立させ、日和田  
ゲレンデでのブルージック  
の検証会や、アクシデント  
時の対応策、ヒヤリハット  
の事例集等を報告されまし  
た。また、大勢の参加者で  
沸いた埼玉労山フェスタ・  
クリーンハイク・雪山ゼミ  
ナール・岩ネット・山スキ  
ーネットなどの活発な活動  
も報告されました。  
方針としては事故防止に向  
けた取り組みを第一として  
引き続きの遭難防止・安全  
教育担当者会議の発展、県  
連登山技術研究集会、第十

三期登山学校の開催。今後  
も遭難対策基金の保険業法  
適用除外の運動を進展させ  
る。四十周年記念誌発行、  
自然保護活動としてのクリ  
ーンハイクと植樹活動。安  
全登山の普及により連盟員  
の拡大を目指すことが提案  
されました。  
各専門委員会による第四十  
期活動報告と第四十一期活  
動方針の発表後、二〇〇七  
年度決算報告・二〇〇七年  
度会計監査報告。二〇〇八  
年度予算案提案が発表され、  
採決・承認されました。  
総会運営委員長から役員選  
出の報告では新たな立候補  
が得られず二〇〇七年度の  
役員体制で続行となり承認  
を得ました。  
全ての予定を終了し佐藤副  
理事長の挨拶で閉会となり  
ました。

### 緊急 新理事選出要のお願い

第41期も始まりますが、各委員会でも現在、担当が兼任で新年度は特に不足の状態です。埼玉県連は、各会の中から集まって形成されています。情報も迅速に会へ伝わります。どんな形での協力や、意見でもお待ちしております。より充実した運営と発展・交流のためにご協力願います。お問い合わせは理事、ブロック、各会代表者まで  
埼玉県連理事長 武笠真次(わらび山の会)

理事会報告

第十三回理事会が三月二十六日(水)に埼玉会館(浦和)で十五名の出席で行われました。

委員会等活動経過

報告・計画予定

【全国連盟活動】二月十六・十七日 第二十八期全国総会出席 武笠、矢崎、佐藤出席

【組織】栃木県連 野木山想会の会長及び事務局長に講演会の了承をもらう。

日程は六月二十二日(土)午後。評議会+経験交流会(市民会館大宮)

各会の代表者を中心に集まってもらう。

【ホームページ】総会で実務担当者要請

【女性】三月八日(土)救急法講習会(講師:柴山利幸・ハイジ)

参加者二十七名 運営委員八名。

【全国女性委員会】三月二十四日 読図(机上)三月二十九日 実技 檜坂山

五月十八日 千葉県連 女性委員と合同交流山行を予定。宝登山

【ハイキング】心拍数実験

登山 秋に検討

【自然保護】三月二日自然保護委員会 十団体 十四名参加

【テーマ】四月二十七日 植樹デー 各ブロック単位で

募集し報告 現在:北部五

名 西部三十五名 六月一日 クリーンハイク

【遭難防止・安全教育】総会にマニユアル改正案を出す。ヒヤリハット報告書も作成

六月二十二日午前会議。(市民会館大宮)

【登山学校】募集パンフレットを理事長が印刷

【山スキーネット】三月二日湯の丸 十名(熊トレのみ)

【登山ゼミナール研究】三月八・九日 八ヶ岳 横岳 杉添尾根

打合せ会議 三月三日 総会に報告書を提出予定

参加六名 講師三名

【ブロック報告】西部 3 クリーンハイク:西吾野周辺

南部 3/27 クリーンハイク:横瀬~丸山周辺

中部 3/6 タカマタギ 九名参加 クリーンハイク:越生 大高取山

北部 鐘撞堂山 秋に心拍数実験登山予定

議 題

埼玉労山四十周年記念誌

三月二十五日第六回運営委員会 座談会テープ起し原稿受取 各会原稿、残り四。

五月印刷予定

四月八日第七回運営委員会 第八回 四月二十二日 第九回 四月二十八日

第四十一回県連総会 日程:三月三十日(日)

時間:十時 場所:埼玉市民会館つらわ

印刷製本作業:三月二十九日 十三時 県連事務所

欠席四名 用紙:B4 二千枚 当日購入 色紙も

購入:二百枚 ホチキスも購入。 総会当日任務依頼

受付:佐藤、長谷川、後藤 会場設営:男性理事

総会資料は前日留め置きを依頼してみる(若木・富永) 交通費支給:廣岡 司会:徳重 懇親会:徳重 横断幕作成:木阪 理事、全員出席 懇親会は受付時に集金 三千元 議案書版下完成状況 二〇〇八年度予算案 3. その他 二〇〇八年度役員選考委員会 退任理事:一名 今井救助隊長、隊長退任を示唆。後継として徳重理事に依頼あり。 二〇〇七年度第一回埼玉 労山自然保護委員会 三月二日(日)、埼玉県労働会館で埼玉労山加盟十団体の担当者及び武笠理事長・佐藤副理事長の出席のもと総勢十四名の参加者で、(一)〇七年度活動報告 (二)加盟団体の自然保護活動の取組み状況

(三)〇八年度活動方針を議題に開催した。武笠理事長の挨拶と参加者の自己紹介の後、議題に入り (一)〇七年度活動報告について、クリーンハイクと「自然保護活動に関するアンケート」結果を報告しました。 (二)加盟団体の自然保護活動の取組みについては、雲取山や雁坂峠付近では鹿の食害で立ち枯れが激しくなっていることや長瀬ではダム建設で水が汚れてアユが減少していること等の報告がありました。各団体ともクリーンハイクは定着してきているので今後は自然観察会や携帯トイレの取組み等に力を注いで行きたいとの発言がありました。 (三)〇八年度活動方針については、県連理事会から提案した 「旧足尾銅山の春の植樹デー(四月二十七日)」「の参加は了承され、参加者取り纏めを各ブロックで三月三十一日(月)に第一次集約・四月十日(木)に最終集約することになりました。県連として始めての統一行動による植樹活動です。 ・・・日ごろ「山」から活力を享受している恩返しとして「山を緑に」

・・・機関紙一三二号に掲載案内していますが会員多数の参加をお願いします。 〇八年度のクリーンハイクの統一行動日は、六月一日(日)に決定致しました。清掃対象山域が重複しないように各ブロックで調整するとともに参加者の拡大と共にワッペン・ノボリ等創意工夫ある啓発行動をお願いしました。 自然保護委員会の組織強化については、各所属団体での自然保護担当者の設置と自然保護委員会を年間二回(春と秋)開催することが決定されました。 埼玉県の植樹祭(秋)への参加の検討 最後に参加者へ「労山自然保護憲章・解説書」を配布して各所属団体での自然保護憲章の学習を深めるとともに具体的な行動を一つずつ実践していくことを確認致しました。 久し振りの自然保護委員会でしたがこの会議を契機に各所属団体での自然保護活動が前進していくことを願っています。 自然保護担当理事 杉江 勲

クリーンハイク 6月1日(日)

北部ブロック:鐘撞堂山 南部ブロック:横瀬~丸山周辺 中部ブロック:越生 大高取山 西部ブロック:西吾野周辺 詳しくは各ブロック担当者に 自然を愛し山に感謝しよう! 大勢の参加者でクリーンハイクをアピールしよう!





山スキーネット

湯の丸山

集合時間8時になってモ他の山岳会の姿は無。熊トレ隊のみで出発する。ゲレンデトップから少し進んだ所でシールを着け登り始める。快調に高度を上げ、一本で湯ノ丸山頂へ。天気は快晴であり、北アルプスの眺めは今回も素晴らしかった。しばし景色を楽しんだ後北峰の北の肩に移動し、鹿沢スキー場方面に向かって滑り始める。雪質は上々、ルート取りも疎林帯を縫う形となり樹林帯のトラバースも最小限で済み、今回のルートは快適であった。雪原にある東屋のやや下一七〇〇M付近に滑り込んで小休止。

湯ノ丸を振り返ると我々の降りてきたシュプールが良く見えた。休憩後、いよいよ北面に向かって滑降開始。パウダースノーの快適滑降となる。個人的には沢状地形になる直前の急斜面の数ターンが特に楽しかった。沢底の一七〇〇M付近までで滑降終了。ここから稜線まではつらい登り返し。ここでメンバーの一人が大きく疲労したため、キツネ平への急斜面の登りは止めにして鹿沢温泉に下山することに計画変更。ゲレンデメンバーに連絡し鹿沢温泉に車を回してもらう。角間山南斜面は強い日差しに照らされ予想通りの悪雪。転ばない様に注意して滑る。雪原に出た後は緩斜面を鹿沢温泉へ。三時過ぎには鹿沢温泉に到着した。天気・雪質とも良く、楽しい山スキーであった。木村理事記

雪山ゼミナール報告

「冬季八ヶ岳連峰横岳に全員登頂！バンザイ！」

三月三日の企画会議では、目標山行となる事、ラッセルの可能性大、アイゼン・ザイルワークが必要となり、テントは樹林帯上部に風を避けて張ることなどが打ち合わせされた。三月八日晴天の下、我々九名は海ノ口登山口で出発の準備を終えた。正面には、横岳杣添尾根が大きく腰を据えていた。過去二回の山行の悪天を取り返したように、雲ひとつなく晴れ渡っていた。トレースが有り順調に午後二時、二四〇〇M付近のテント場に着いた。明日の登頂を祈念して「カーンパイ」。三月九日、日の出とともに出発。二六〇〇M付近でアイゼンを装着とする。一名不備が発生し、コーチによるカッティング作業でカバーすることとした。雪綾から雪の急斜面を超えて登って行った。こうして十時、横岳杣添尾根よりの全員完登となりました。詳しくは、「雪山ゼミナール通信」を読んでください。雪山ゼミナールの志向性は次の点で良い結果が得られ

たと思えます。

三回の山行を共にして目標の登山を達成する。登山のチームワークの向上を図る。(全員が自然に目を向ける。自主・自立と助けあうこと) 二回の訓練山行で技術習得と共通化を目指す。悪天ではあったが危機管理と安全性の高度化を目指した。

担当理事 徳重



救助隊訓練報告

関東ブロック救助隊深

雪搬出訓練

今年度は千葉登山救助隊主管により谷川岳・西黒尾根末端にて開催されました。二十三日はデモンストレーションと実技講習 (特別講師：恵 秀彦氏) 及び特別講演 (馬場保男 元谷川岳救助隊長) が土合山の家にて行われました。二十四日はビーコン/プロンプ訓練 (講師：門脇氏/石川氏) 初動捜査からレスキュー (特別講師：恵氏) 梱包/搬出 (講師：徳重氏/川嶋氏) を班分けにてそれぞれ行われました。参加は六十四名、東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬・茨城・栃木の救助隊員です。わが埼玉は残念ながら二名の参加でした。いろいろ事情があったこととは思いますが少なすぎます。来年は多数のメンバーを送りたいと思っています。二十四日の訓練内容 八時土合山の家前集合 班

分け、点呼、装備点検 先行ルート工作班とサポート班に分ける。 先行パーティーは必要装備のみを持ち出発。ルート工作しながら登る。 後発パーティーは先行パーティーの工作した固定ロップを使って、補給品をもつて追従する。 負傷者発見、スケッドストレッチャーに梱包し、引き下ろし支点の確保地点まで引き上げる。ここから引き下ろし開始する。結び目通過の訓練を入れながら下降する。サポート班は使用した支点装備を回収しながら下降する。 登山指導センターにてミーティングして訓練を終了した。 (報告 三宅)

中部B交流山行

「タカマタギ」報告

期日：二〇〇八年三月十五・十六日
場所：上越 タカマタギ(一五二九M 25万圓 土樽)

集合：大宮西口代ゼミ前 7:00 車利用

参加者：徳重、犬丸、岩崎、小島、世古、河原塚、殿塚、岡野(以上大宮登山)高橋(くまざさ)

十五日十時過ぎに土樽到着。駅で共同装備を分担するが、奪うようにして、数分で終了。春のような好天氣で道端の露の臺を取りながら歩く。毛渡橋を渡り尾根に取り付くと、茂倉岳が大きく見え出す。高度を上げると、国境稜線、巻機など周囲の山も姿を見せる。一〇四〇Mのピークに十四時三十分頃着く。テント泊。十六日六時テント発。昨日に続き好天。周囲の山を眺めながらの登り、二ピッチほど途中急登がある。三年越しの念願が叶い、九時過ぎに頂上。昨日先行していた松戸山の会も来る。写真を撮り下山する。土樽周辺で温泉、食事を済ませ、帰宅。関越道少し渋滞して遅くなる。

大宮登山 岡野和夫

救急法講習会

三月八日(土)埼玉登山女性委員会主催、救急法講習会を埼玉労働会館で行いました。講師はMFAインストラクターの柴山利幸さん(ハイジアルペンクラブ)でした。参加者は三十四名でした。

内容は、心肺蘇生法、AED実技、簡易搬送、応急処置と盛りだくさんでしたが、一日、熱心に学習しました。特に命にかかわる心肺蘇生法については、実技を中心にやりました。現実には倒れていて意識がない人を見かけても、すぐに手を出して行動できる人は5%くらいしかいないそうです。

倒れていて意識のない人がいたら、呼吸の確認をして、救急車を呼んでもらい、AEDを持ってきてもらうよう手配します。氣道を確認して呼吸をしていないことがわかったらすぐに心臓マッサージを始めます。乳頭をつないだ位置を真下に向かって三十回押します。次に、鼻をつまんで人工呼吸を二回します。これを救急隊が来るまでずっと繰り返します。これを二人組になって約三分間繰り返し返しました。やってみて大変さがよくわかりました。午後は三角巾を使って捻挫の処置の仕方やけがをした時の使い方について実際にやってみました。最後にグループごとにシミュレーションをやりました。1.捻挫で歩けない人を見つけたとき(意識有) 2.危険な場所に滑落したとき(意識有) 3.山小屋で突然倒れたとき(意識なし) 体験してみてもいざとなるとどう動くのか戸惑うことが多いことがわかりました。その場でリーダーを決め、役割分担をすることの大切さを強調されました。柴山さんが一つ一つについてとても丁寧にわかりやすく教えてくださったので、意義のある学習会になりました。

新座山の会 嶋田好枝



みなさん! はじめまして「日進山岳会」です。

今年二〇〇八年二月から、埼玉登山に加盟することになった「日進山岳会」といいます。会員数十二名という比較的小規模の山登り愛好会です。事務局をさいたま市北区日進に設けていることから、「日進」山岳会といえます。二〇〇二年度から、ほぼ最低月一回、首都圏を中心に日帰り山行を行ってまいります。五月や八月には、小屋泊まりの山行も実施してまいります。

我が山岳会の特長は、何といっても「ゆつくり、かつ安全に!」という点と温泉、かつお酒」という点でしょう。したがって、決して無理をしませんし、温泉とお酒で和気あいあいとしています。こんな私たち山岳会ですが、問題は、基礎的な登山知識や安全対策等が不十分であるということにあると自覚しています。埼玉登山に参加して、こういった点でのレベルアップを果たし、さらに「ゆつくり、かつ安全に!」を徹底していきたいと考えています。

山を愛する気持ちは誰にも負けない者ばかりです。で、今後ともよろしくお願ひいたします。(日進山岳会会長・杉山記)

みんなの歌 山はよいとこ 作者不詳

- (1) 風はそよ風 ヤッホー! 光る綿雲 ヤッホー! 君と行こうよ 峠の道を 山のヒュッテも木の間(コマ)に見えて 青い淵瀬に 岩魚が踊る 山はよいとこ ヤッホー!
(2) むせる若葉だ ヤッホー! キャンプファイヤーだ ヤッホー! 君と歌おうよ 月影浴びて 心嬉しい 一夜が明けりゃ 呼ぶよ高嶺が 切り立つ沢が 山はよいとこ ヤッホー!
(3) 渡る小鳥だ ヤッホー! 谷は紅葉だ ヤッホー! 君と語ろうよ 湯宿の窓に 干したタオルに 落ち葉が散れば 白樺濡らし 時雨(シグレ)が通る 山はよいとこ ヤッホー!
(4) けぶれ新雪 ヤッホー! 銀のスロープ ヤッホー! 君と滑ろうよ 山から山へ 楽しスキーの ひと日が暮れりゃ 樽火(たぐび)囲んで 話しがはずむ 山はよいとこ ヤッホー!

134号は41期新理事のあいさつ文、救助隊総会報告、自然保護委員会 植樹デー報告、理事会報告、ふれあい交流ハイキングの内容を予定しています。担当者の方は心がけください。5月2日締切、6日印刷(鶴瀬公民館 PM8:00~)7日発送の予定です。また、投稿や印刷のご協力もお待ちしております。機関紙担当 青木 正 〒354-0032 富士見市渡戸1-11-14 ☎/FAX 049-254-2534 wm-aoki@mub.biglobe.ne.jp bulu-m-aoki-fhigter@docomo.ne.jp

< 編集後記 >

新年度第1弾は話題満載でした。これからも皆さんの期待に添うよう頑張ります。どんな記事でも送ってください。どうぞみんなの歌のリクエストも待ってマ~ス。Internet「山の愛唱歌集」ではメロディーも流れてきますよ!(アオ)